

ICT街づくり推進会議 地域懇談会@北陸 議事要旨

1. 日時

平成26年3月28日（金） 14：40～16：40

2. 場所

七尾サンライフプラザ 中ホール

3. 出席者

(1) ICT街づくり推進会議構成員

岡座長

(2) ICT街づくり推進会議普及展開WG構成員

遠藤構成員、齋藤(義)構成員、関構成員、細川構成員、武藤構成員

(3) 石川県七尾市における地域実証プロジェクト関係者

不嶋七尾市長、大藪金沢星稜大学教授、的場氏（七尾商工会議所総務課）

(4) 富山県富山市における地域実証プロジェクト関係者

神田富山市副市長、黒瀬富山市都市整備部交通政策課長、大間知(株)インテック環境未来都市事業推進室長

(5) 総務省

阪本情報通信国際戦略局長、伊丹北陸総合通信局長（司会）、小笠原情報通信政策課長

4. 議事

(1) 石川県七尾市におけるICT街づくり推進事業の取組等について

(2) 富山県富山市におけるICT街づくり推進事業の取組等について

(3) 意見交換

5. 議事概要

(1) 石川県七尾市におけるICT街づくり推進事業の取組等について
不嶋七尾市長より、資料1に基づき説明が行われた。

(2) 富山県富山市におけるICT街づくり推進事業の取組等について
神田富山副市長より、資料2に基づき説明が行われた。

(3) 意見交換

主な発言は以下のとおり。

(石川県七尾市の取組について)

【阪本局長】

- 一般的に、高齢者の方々にICTを使って頂くことは、リテラシーの観点からハードルがあると認識しているが、事業の実施に当たって苦勞された点等をご教示頂きたい。
- 実証プロジェクトの結果について、定性的に評価頂くことも勿論重要だが、可能な限り定量的に評価頂き、結果をフィードバックできるようにして頂きたい。

【不嶋市長】

- 金沢星陵大学に協力頂き、アンケート調査を実施したことがあるが、本市のICTリテラシーは、高齢者に限らず総じて高くないという結果が出ている。特に、高齢者の方にとってスマートフォンを利用することはハードルが高いと考えられるため、行政として、公民館で講習会を開催する等、きめ細かく対応していきたい。
- 定量的な評価についても、大学と協力しながら引き続き頑張っていきたい。

【的場氏】

- システムを安価に運用することが可能になるのであれば、見守りの対象を高齢者の方に限定するのではなく、市民全員を対象とした行政サービスとして

実施してもよいと思う。

【齋藤(義)構成員】

- 見守られる側（高齢者）の方にスマートフォン等を利用頂くためには、見守られる側、見守る側（行政）、離れたご家族の方、それぞれのメリットがどれだけあるのかが重要。実証実験の中で、これら3者に対する想定外のメリットとしてこんなものがあった、というエピソードをご教示頂きたい。
- 今回の取組の中で様々なデータを活用していたが、オープンデータやビッグデータとしての活用（二次利用の促進）についてのお考えをご教示頂きたい。

【大藪教授】

- 本学の学生が実証実験実施地域に赴き、高齢者のためにスマートフォンの体験会を開催したところ、アンケート評価における満足度が高かった。スマートフォンに詳しい学生の活用によって、高齢者のスマートフォン利用が活性化していく可能性があると感じている。

【的場氏】

- ビッグデータとしての活用にあたっては、データを分析する人材の育成が課題と認識。その後のビジネスに繋げていくためにも、大学と協力しながら人材育成に力を入れて参りたい。

【細川構成員】

- 七尾市の観光に関する取組みについては、アメリカのボストンにおける「フリーダムトレイル」のようなものをAR技術等のICTによって実現しているものであり、非常に有用であると感じた。地図情報に観光に関するおすすめ情報等を付加してあげるとなお良いと思う。
- 他方で、インフラ側にイベント等で大勢の観光客の方が来た場合に対応できる十分なキャパシティがあるのかという点と、AR等の読み込みに関してセキュリティの堅牢性は確保されているのかという点についてご教示頂きたい。

【的場氏】

- インフラについては、1 G b p s 程度の通信容量であるため、一挙に大勢の観光客の方がいらっしゃった場合は対応が難しくなるというのが現状。利用動向を注視しながら、市やケーブルテレビ事業者と調整し、十分な通信容量を確保して参りたい。
- セキュリティについては、運用でカバーしている状況であり、専門の技術者等を配置したいと考えているが、現状としては難しい。

【大藪教授】

- セキュリティについては、国全体として取り組まなければならない課題であると認識しており、N I C T 等の研究所で開発頂いたものを導入していきたいと考えている。

【細川構成員】

- N I C T は地方公共団体にセキュリティシステムを提供している実績もあるので、協力できることがあれば是非仰って頂きたい。

【関構成員】

- 観光にA R 技術を活用している点は非常に面白いと思うが、そういったものを観光客に対して七尾市に来る前から周知するための具体的な取組として、どのようなものを想定されているのかご教示頂きたい。

【的場氏】

- 現時点で想定しているのは、能登空港や七尾駅などにデジタルサイネージを設置したり、或いは、東京で開催する石川県の物産展に七尾市のブースを設けたりして、文字情報ではなくイメージがもっと沸きやすいように動画などで情報発信をしていければと考えている。

【遠藤構成員】

- 七尾市のプロジェクトでは「市民が主役のまちづくり」というコンセプトを掲げていらっしゃるが、具体的な市民参加の形についてご教示頂きたい。

【不嶋市長】

- 市民のニーズを的確に把握し、それを行政サービスに繋げていくことが重要。今回の事業はまだ取組を始めたばかりで、市民の理解度が十分ではないところがあるのは事実。地道ではあるが、サービスを継続しながら市民の皆様の意見を広く取り入れていきたい。

【武藤構成員】

- 数年前に能登半島地震に見舞われたこともあり、安心・安全に関する意識は非常に高いかと思うが、いざ災害に遭った際に、本事業の見守りシステムがうまく利用される仕組みとなっているのかについてお伺いしたい。

【不嶋市長】

- 共助の仕組みを取り入れて、地域で見守る体制を構築するなど、災害時でもうまく利用されるような工夫を行っている。そのためにも今回の実証実験の成果を広げていくことが重要と認識。

(富山県富山市の取組について)

【阪本局長】

- いわゆる「まちづくり」の場合、数十年という非常に長いスパンが必要になる一方、ICTの導入に当たっては比較的短いスパンで実現可能であるという側面がある。
- 富山市の取組では、ICTを活用して人々の動態情報等を把握し、それをまちづくりに生かすというコンセプトで取り組まれているが、「まちづくり」はどれくらいのタイムスパンで検討されているのか。

【神田副市長】

- いわゆる「まちづくり」のタイムスパンは10年単位で考えるのが基本。現在の富山市においては、平成17年のデータを基準とし、コンパクトシティをコンセプトに掲げて、20年後の街の姿を想定している。
- ただし、それはあくまで目標であるため、社会や経済情勢の変化に応じて、その都度軌道修正を図っていくことが重要。

【武藤構成員】

- 富山市では、G空間情報や住民基本台帳の情報ははじめとした行政情報をうまく活用されていると認識。そういった中で、特に行政情報の活用の際に際してのご苦勞があればお伺いしたい。

【神田副市長】

- 住民基本台帳の情報をもっと活用すべきとの声もあるが、市としては、安全性を最優先として運用を進めている。
- 今回の事業では中心市街地活性化をテーマとして取り組んできたが、七尾市の観光に関する取組も参考にしながら、情報の提供方法や複数分野に跨がった情報連携方策を検討して参りたい。

【関構成員】

- 富山市では2年前にも地域懇談会を開催し、当時からG空間情報の活用に関して積極的に取り組んで頂いていたと認識。その際、地図メッシュを細かくしたり、住民基本台帳との情報連携を行ったりすることで、より付加価値の高い取組を実現できるというお話があったと記憶しているが、現在の進捗状況をお伺いしたい。

【神田副市長】

- 地図メッシュは様々な粗さを試行してきたが、実際に政策判断を行うことを想定した場合は、250メートルメッシュのものが一番良いという結論に達した。
- また、住民基本台帳との情報連携については、全ての情報を連携させてしま

うと、どこに独居高齢者の方がお住まいなのか等が判別可能になってしまう恐れがあり、公開する情報の範囲については精査が必要。

【細川構成員】

- バス等の公共交通機関の位置情報を公開している点は非常に興味深かったが、他地域への普及展開を考えた場合、この取組がどういう効果をもたらしたのかを定量的に評価することが重要。今回の事業ではどのように評価を行ったのかお伺いしたい。

【大間知室長】

- 評価については、アンケートを通じて実施しているのが現状。ただし、今回の事業においてビッグデータ分析の仕組みは構築出来たため、今後、具体的な検証を行っていききたい。

【遠藤構成員】

- ICT街づくりを他の地域に普及させていくためのポイントはビジネスモデルが構築できるかどうかだと認識。そのためには何をKPI（キー・パフォーマンス・インジケータ）として設定するかが重要になるが、富山市の事業では何をKPIとして設定しているのか、お伺いしたい。

【神田副市長】

- 何をKPIとして設定するのは非常に難しい問題。持続性のある行政を心がけてはいるが、状況によってその都度、目標設定を変えているのが実情。

（全体を通して）

【小笠原課長】

- ICT街づくりに関する事務については、法定事務ではないため、自治体の意向次第でその担い手が変わってくると認識。今回構築したシステムについて、今後、自治体内で運用されるのか、それとも外部の組織を活用されるのかお伺いしたい。

【不嶋市長】

- 七尾市では、全てを行政だけでやるというのは難しいと認識しており、民間の力も借りながら、それぞれの持ち味を生かしつつ運用していくことが基本になる。
- 面的な広がりという意味では、同じ課題を持つ周辺自治体とも連携しながら進めていくことを想定。

【神田副市長】

- 富山市も、全てを行政だけでやることは難しく、民間の力も借りながら運用していくことが基本になる。

【阪本局長】

- ICTは非常に技術革新が早い分野であり、その恩恵を十分に受けるためには、今まで確立していた分野が横断的に連携すること、産官学が上手く連携することが重要。

【神田副市長】

- （齋藤（義）構成員からの、今回の取組を通じて外出者数の増加等の効果がどの程度だったかという質問に対して、）今回の取組とは直接関係はないが、次世代型の路面電車の導入によって、新規の外出者数が2割程度増加し、それが健康増進に繋がるのではないかと期待している。

【神田副市長】

- （今後の展開に関する要望・意見はないかという質問に対して、）本事業を通じて事業を立ち上げることができたが、継続して運用していくためのビジネスモデルを確立するまでには至らなかったため、数年間の支援をして頂きたい。

【不嶋市長】

- （今後の展開に関する要望・意見はないかをいう質問に対して、）全国で実施されている地域実証プロジェクトの中に、七尾市で利用できるものがあるかもしれないので、各地域の取組に関する情報を提供して頂きたい。

【大間知室長】

- （今後の展開に関する要望・意見はないかをいう質問に対して、）地域実証プロジェクトの他地域への成果展開を考えた場合、自治体だけではなく民間企業の力が必要となってくるはず。「この取組はこういうところに展開したら良いのではないか」等のアドバイスを頂きたい。

【岡座長】

- 街づくりにおいては、市長のリーダーシップと市民の方々の積極的な参加が重要。市長の理念・情熱に市民が同意・共感して、事業をきちんと評価をして頂くことが大事。
- ICT街づくりの先行地域（東京都三鷹市を始めとした5都市）においては、取組の第二段階として、それぞれの地域の取組を連携・横展開させていくための事業を実施しているところであり、七尾市、富山市における成果についても横展開を進めて頂けると幸い。
- 我々としても、今日、この場で勉強させて頂いた内容を他の地域でもPRさせて頂き、成果の横展開の一助とさせて頂く。

以 上